



## 2024年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社Speee  
コード番号 4499 URL <https://speee.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 大塚 英樹  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 西田 正孝 TEL 050 (1748) 0088  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年9月期第3四半期の連結業績（2023年10月1日～2024年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		EBITDA		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第3四半期	11,631	16.7	90	△87.4	133	△82.5	224	△73.4	△27	—
2023年9月期第3四半期	9,969	21.2	717	△39.0	760	△36.5	844	△32.5	417	△46.0

(注) 包括利益 2024年9月期第3四半期 △27百万円 (—%) 2023年9月期第3四半期 417百万円 (△46.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第3四半期	△2.61	—
2023年9月期第3四半期	40.35	39.48

(注) 1. EBITDA=税金等調整前四半期純利益+支払利息+減価償却費+のれん償却費

2. 2024年9月期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第3四半期	10,055	5,145	51.2
2023年9月期	11,295	5,044	44.6

(参考) 自己資本 2024年9月期第3四半期 5,143百万円 2023年9月期 5,041百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年9月期	—	0.00	—	—	—
2024年9月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年9月期の連結業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,000	25.0	500	△38.3	540	△36.2	200	—	18.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ② ①以外の会計方針の変更：無
  - ③ 会計上の見積りの変更：無
  - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期3Q	10,676,100株	2023年9月期	10,466,000株
② 期末自己株式数	2024年9月期3Q	5,043株	2023年9月期	201株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年9月期3Q	10,635,852株	2023年9月期3Q	10,355,340株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についての注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社が約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	8

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当社グループは「解き尽くす。未来を引きよせる。」をミッションとし、創業以来培ってきた、データ分析能力とテクノロジーを活かして、多様な産業領域のデジタルトランスフォーメーションを推進しております。

具体的には、デジタル化が進んでこなかった市場において生活者（消費者）と事業者を、デジタル化を通じて最適な形でマッチングすることを目指すレガシー産業DX事業、データの利活用によって企業のマーケティングを高度化することを目指すDXコンサルティング事業及びステーブルコインの早期実用化を目指す金融DX事業を運営しております。

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス拡大による社会経済活動の制約が解消され、国内経済は徐々に持ち直しが期待されております。一方、世界的な情勢不安や物価上昇などにより国内外の経済的な見通しは不透明な状況が続いております。当社グループを取り巻く事業環境においては、多くの企業におけるDXを活用した業務改善などが活発化した影響もあり、当社サービスに対するニーズが高まりました。ビジネスにおける営業及びコンサルティング活動のオンライン化が定着したことにより事業機会が拡大しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、売上高11,631,913千円（前年同期比16.7%増）、営業利益90,048千円（前年同期比87.4%減）、経常利益133,256千円（前年同期比82.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失27,711千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益417,809千円）となりました。

なお、当社グループでは、事業基盤の強化や拡大を積極的に目指していく中、各国の会計基準の差異にとらわれことなく企業比較が可能なEBITDA（税金等調整前四半期純利益＋支払利息＋減価償却費＋のれん償却費）を経営指標として重視しており、当第3四半期連結累計期間のEBITDAは224,244千円（前年同期比73.4%減）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分及び名称を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

また、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

#### ①レガシー産業DX事業

レガシー産業DX事業は、デジタル化が進んでこなかった市場において、デジタル化を通じて生活者（消費者）と事業者を最適な形でマッチングすることを目指しており、「イエウール」「ヌリカエ」「ケアスル 介護」が属しております。

営業活動が堅調であることに加え、自社サービスの拡充及び提携先メディア等とのアライアンスの強化を行った結果、加盟業者数、ユーザ数ともに順調に増加しており、高い売上成長率を実現しました。また今後の持続的な成長のため、各領域における新規事業（サービス）の展開へ向けて、ソフトウェア開発等に関する投資を強化しております。

この結果、売上高は8,201,002千円（前年同期比20.2%増）、セグメント利益は713,199千円（前年同期比19.1%減）となりました。

#### ②DXコンサルティング事業

DXコンサルティング事業は、顧客企業のデータ資産を利活用し、マーケティング活動を高度化することを目指しており、「コンサルティングサービス」「広告運用」の2形態からなるサービスを提供しております。「コンサルティングサービス」においては、顧客企業におけるデジタルマーケティングの強化及びデータ活用意欲の高まりにより、案件獲得が堅調に推移しました。「広告運用」においては、顧客企業のデジタルマーケティング予算の増加はあったものの、社会環境の変化に伴う広告市況感の悪化を受けております。

この結果、売上高は3,430,611千円（前年同期比11.2%増）、セグメント利益は1,383,820千円（前年同期比9.2%減）となりました。

③金融DX事業

金融DX事業には、「Data Platform事業」が属しており、サービス拡販に向けて取り組む一方、引き続きサービス開発に注力しました。「Data Platform事業」においては、ステーブルコインの早期実用化を目指しており、ステーブルコイン等デジタルアセット関連のプロジェクト開発のために積極的な開発投資を進めてまいりました。

この結果、売上高は300千円（前年同期比99.5%減）、セグメント損失は303,376千円（前年同四半期は133,736千円のセグメント損失）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は8,367,383千円となり、前連結会計年度末に比べ1,290,719千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が1,570,394千円減少したことによるものであります。固定資産は1,687,980千円となり、前連結会計年度末に比べ50,343千円増加いたしました。これは主に、投資その他の資産が99,621千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、10,055,363千円となり、前連結会計年度末に比べ1,240,376千円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は3,482,284千円となり、前連結会計年度末に比べ1,437,457千円減少いたしました。これは主に、未払金が1,051,648千円、信託型ストックオプション関連損失引当金が682,540千円減少したことによるものであります。固定負債は1,427,145千円となり、前連結会計年度末に比べ95,388千円増加いたしました。これは主に、その他が47,529千円、長期借入金が46,932千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、4,909,430千円となり、前連結会計年度末に比べ1,342,068千円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は5,145,933千円となり、前連結会計年度末に比べ101,692千円増加いたしました。これは主に、資本金が64,861千円、資本剰余金が64,861千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は51.2%（前連結会計年度末は44.6%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の業績予想については、2023年11月10日に公表した内容から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,643,260	5,072,865
受取手形及び売掛金	2,721,757	2,977,729
その他	902,603	450,936
貸倒引当金	△609,518	△134,147
流動資産合計	9,658,102	8,367,383
固定資産		
有形固定資産	426,323	399,391
無形固定資産		
ソフトウェア	136,190	97,824
ソフトウェア仮勘定	—	16,271
その他	1,006	754
無形固定資産合計	137,197	114,851
投資その他の資産	1,074,116	1,173,737
固定資産合計	1,637,637	1,687,980
資産合計	11,295,740	10,055,363
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	390,896	410,823
1年内返済予定の長期借入金	933,374	1,079,740
未払金	2,024,438	972,789
未払費用	304,669	462,757
未払法人税等	26,456	10,712
賞与引当金	236,799	145,177
信託型ストックオプション関連損失引当金	682,540	—
その他	320,566	400,284
流動負債合計	4,919,741	3,482,284
固定負債		
長期借入金	878,055	924,987
資産除去債務	166,366	167,294
その他	287,336	334,864
固定負債合計	1,331,757	1,427,145
負債合計	6,251,499	4,909,430
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,423,951	1,488,813
資本剰余金	1,463,961	1,528,823
利益剰余金	2,154,380	2,126,668
自己株式	△625	△635
株主資本合計	5,041,668	5,143,670
新株予約権	2,572	2,263
純資産合計	5,044,241	5,145,933
負債純資産合計	11,295,740	10,055,363

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
売上高	9,969,289	11,631,913
売上原価	1,529,466	1,966,926
売上総利益	8,439,822	9,664,987
販売費及び一般管理費	7,722,470	9,574,938
営業利益	717,352	90,048
営業外収益		
受取手数料	34,041	46,851
その他	17,201	5,573
営業外収益合計	51,242	52,425
営業外費用		
支払利息	5,660	6,306
投資有価証券評価損	—	774
投資事業組合運用損	1,954	1,508
匿名組合投資損失	—	569
その他	612	59
営業外費用合計	8,228	9,217
経常利益	760,367	133,256
税金等調整前四半期純利益	760,367	133,256
法人税、住民税及び事業税	340,926	74,240
法人税等調整額	1,630	86,727
法人税等合計	342,557	160,968
四半期純利益又は四半期純損失(△)	417,809	△27,711
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	417,809	△27,711

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	417,809	△27,711
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△145	—
その他の包括利益合計	△145	—
四半期包括利益	417,663	△27,711
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	417,663	△27,711



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	78,419千円	84,681千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	レガシー産業DX	DXコンサルティング	金融DX	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,820,022	3,085,272	63,994	9,969,289	—	9,969,289
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	51,488	—	51,488	△51,488	—
計	6,820,022	3,136,761	63,994	10,020,778	△51,488	9,969,289
セグメント利益 又は損失(△)	882,028	1,523,418	△133,736	2,271,710	△1,554,358	717,352

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,554,358千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	レガシー産業DX	DXコンサルティング	金融DX	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,201,002	3,430,611	300	11,631,913	—	11,631,913
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	16,854	—	16,854	△16,854	—
計	8,201,002	3,447,466	300	11,648,768	△16,854	11,631,913
セグメント利益 又は損失(△)	713,199	1,383,820	△303,376	1,793,643	△1,703,594	90,048

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,703,594千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、今後の事業環境の変化や提供サービスの進化を踏まえて合理的な区分の検討を行った結果、報告セグメントの区分方法を見直し名称変更を行っております。従来、「不動産DX事業」としていた報告セグメントの名称を「レガシー産業DX事業」に、「その他」に含まれていた連結子会社の株式会社ThinQ HealthcareをマーケティングDX事業と統合し「DXコンサルティング事業」へ変更しております。また「その他」に含まれていた連結子会社の株式会社Datachainを「金融DX事業」として独立した報告セグメントと変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。